

第10回 1月セミナーを1月24日(土)13:30~15:30 に開催しました。参加者の皆さんよりお預かりしたリフレクションをまとめました。

会 場 愛知文教大学 201教室  
テ ー マ 「図形楽譜づくりによる音楽鑑賞の授業」  
講 師 東海学園大学 教授 横山 真理先生

今日のセミナーで学習した中で重要だと思ったことは、学びのプロセスなど、音楽的思考を重視すること、音楽の本質とは何かを考えること、見えない動きをどう考えるか、多様性や対話性を、どう視点に落とし込むかを、図形楽譜や逐語記録を通じて考えること等、多くの重要なことを学びました。

今日のセミナーは鑑賞授業の大切さを感じることが出来、出席して良かったです。教育芸術社の会社の方に質問します。小4の題材さくらさくらで旋律作りですが、教科書のQRコードを読ませても機能的に大変で、結局自作教材を作って授業をしました。どなたが、会社の方か分からず、話ができなかったのですが、図形楽譜の箇所改善が必要だと思います。宜しくお願いします。

今日のセミナーで学習した中で重要だと思ったことは、授業分析をする際、どのように記録するか、分析資料の準備方法です。

初めてセミナーに参加しましたが、とても勉強になる実りある時間でした。

図形音譜づくりによる音楽鑑賞の授業を実際に体験し、音楽を心で感じたことを、手を動かし、言葉で表現するまでの一連のプロセスを経験できたことが特に印象に残っています。取り組む時間の長さや先生の声のかけ方によって、学びの深まりや効果が大きく変わることを実感しました。

実際に作業をしていると、夢中になって先生の指示が聞こえなくなってしまうたり、逆に指示を聞こうとすると手が止まってしまうたりと、説明のタイミングや内容の難しさを体感しました。どの場面で、どのような声かけをするのがよいのか、生徒の気持ちを実感をもって理解することができました。

また、色や形をあえて制限することで授業がスムーズに進むこと、同じ音楽を聴いていても出来上がる図形音譜が一人ひとり異なることも大変興味深かったです。さらに、「どうしてそう考えたのか」を対話を通して共有することで、自分自身の考え方や表現方法の幅が広がることを感じました。

授業分析の部分については、もう少し詳しくお話を聞きたかったという思いがあります。分析視点の設定や分析方法、解釈の仕方などを、より具体的に体験できる講座があれば、ぜひ受講したいと思いました。

あっという間に時間が過ぎてしまうほど、充実したセミナーでした。ありがとうございました。

今日のセミナーで学習した中で重要だと思ったことは、子どもたちの内面をどのような方法を使って表現できるようにするか、またどのように見取っていくかについてよく考えました。

図形楽譜がどのようなものか、体験をすることで少し理解ができました。子供の視点で取り組んでみると、非常に楽しく夢中になりました。ただ、イメージを1枚で表現するような形で作っていたため、映像で見たように部分や流れを表現するという形でも、図形楽譜に取り組んでみたいと思いました。

授業記録では、話した言葉だけではなくて、演奏や行動も含めて記録することに苦戦しました。苦戦をしながらも、丁寧に繰り返し何度も見ることで、目の前の授業に近い授業記録に少しずつ近づいていくのかなと感じました。

小学校教員の立場でも、研究をする立場でも学びの多いセミナーでした。ありがとうございました。

今日のセミナーで学習した中で重要だと思ったことは、逐語記録に基づく授業分析で行った、グループワークによる分析資料の作成です。

グループワークで行った分析資料の作成において、横山先生が「AI などを使用して作成し

た資料には価値がない」旨おっしゃっていましたが、その言葉がとても心に響きました。また、どんなにわずらわしく手間のかかる作業であっても、研究者の視点・フィルターを通して作り出された分析資料にこそ意義があり、その資料で初めて授業の振り返り・分析が可能になる旨のご発言には、忙しい中でつい忘れがちになる大切な原点をもう一度振り返るきっかけとなり大変感銘を受けました。全体を通し非常に有意義な時間を過ごすことができ、大変感謝しております。ありがとうございました。